

蜜蜂の飼育法

山形純男

▲適地

前に申しあげました通り本県は幸に養蜂に適しておりまして、どんな所でも飼育することができます。只一定の場所で何群飼育可能かと言うことです。これは其の地方の蜜源植物を調査して定めなければなりません。普通5, 6群位は飼育可能です。岡山市の町中で飼育しておる養蜂家もあるのです。岡山県の北部で積雪の多い地方では冬期間雪の少ない所に転地した方が良いでしょう。全国的に申しますと東北地方とか北陸地方の雪の多い土地で盛に養蜂をして居りますから飼育方法を研究すれば転地しなくても飼育可能です。

蜜蜂の活動範囲は半径2キロから3キロの円の以内位が最適とされておりますが、実際には5, 6キロも活動します特に山間地へ行きますと10キロもある蜜源に動くことがあります。

巣箱を設置する位置はよく乾燥し冬は暖かく夏は涼しい朝日のあたるところで風当りの少ない所がよろしい、夏は日覆のできる所冬は風垣のある所が理想です。西北に風垣のある果樹園等は最もよろしい。

最近農薬が非常に進歩しまして、ポリドール、パラチオン等の強烈な農薬の使用で家畜に相当被害がありますが、蜜蜂も農薬の被害を受けますから農薬の散布で粉末又は薬液の飛来しない所を選ぶことが大切です。農薬の被害で全群死滅した実例は多いのです。農薬の散布時期は予測できますから、心配のない土地へ転地するとか、一時巣門を閉るとかして被害を防ぐのも一法です。農薬で最も被害のあるのは、ホリドール、パラチオン、マラソン剤、BHC等です。

巣箱は巣門を南又は東南に向けるのが最もよく定地養蜂では巣箱を地面より10cmか15cm位上げ台を作るのがよろしい。転地の場合は巣箱をそのまま地上に置きますが巣箱が早く腐敗します。から台を作った方

がよろしい、巣箱の後を少し高くして巣門より雨水の流入を防ぎますと同時に屋根から雨水がよく流れるよう傾斜さすことも心掛ねばなりません。

巣箱を2個以上設置する時は巣箱の左右を1m以上はなし又前後は2m以上はなすのが理想ですが場合によっては左右は30cm位にしても差支ありません只管理に不便ですから2群置ては1mはなすようにすると管理に便利です。この場合前後は必ず3m以上間をあける方がよろしい。

蜂場は住宅に近いことも条件の一つです。特に初秋より晩秋にすずめ蜂(熊蜂ともおにかとも言)の多い地方では人目にかかり安い場所がよろしい、道路のすぐへりとか自動車の土煙のかかる場所はさげなければなりません。又牛、馬、山羊、羊等をつなぐ場所の近くもよくありません。蜜蜂は毛のある動物(牛、馬、山羊、羊、犬、猫)をきらいますから注意して下さい人でも頭の毛をきらってさしに来ますから男女共に蜂場で作業をする時は帽子とか手拭等で頭髮の部分覆して下さい。しかし4, 5群の蜂場では心配はありません。多数の群勢を設置する時はこの点を特に注意しなければとんだ事故がおこることがあります。先年香川県より転地して来ておりました養蜂業者の蜂場へ親仔3頭の山羊がはいりまして巣箱の上にあがったため蜂場全群の蜜蜂が襲撃して山羊が死んだ実例があります。

▲巣箱

巣箱は全国共通の標準巣箱(ラー式)を使用することを御進めします。標準巣箱にしますとどこの商店から購入しても寸法が同じですから大変に便利です。他の人の不用になった品を分譲してもらった巣箱も分離器も継箱も全部寸法が合います。巣箱は自家で作っても岐阜方面から購入してもよろしい。価格は大量生産をします岐阜方面の商人から購入した方が割安で

岡山畜産便り1959.11・12

しかも寸法が標準巣箱に合った材質の良い品が入手出来ます。1個とか2個とかを地方の大工さんに作らすとかえって高くつきますし標準寸法に合わないものが出来てこまる場合があります。材料は杉の赤味で正五分板が適当です。現在市販の価格は1個680円位(岐阜渡)です。

▲巣箱の構造

巣箱には定地巣箱と転地巣箱の2通りがあります。定地者は割安の定地巣箱を使用するのがよろしい、又定地巣箱でしたら屋根型の蓋を取付けますと水切もよく夏は涼しくて巣箱の腐敗も少なくなります15cm位の足を取付けますと尚よいと思います。小転地をする場合は転地巣箱を使用した方が蜂のためによろしい転地巣箱には色々の型がありますが岐阜式の転地巣箱が本県では多く使われております。この巣箱は前後に小窓があり窓に金網を張り蜂が出られないようになっております。転地の時はこの小窓を開いて通風をよくします。目的地に着いた時は巣門を開いて小窓を閉めておきます。

巣箱には6枚箱、8枚箱、10枚箱、13枚箱、15枚箱と横巾に大小がありまして10枚箱が普通で最も多く使用せられております。この巣箱には冬期巣樞が10枚入るように出来ておりますのでこのようなよび方をします。(6枚箱は冬期6枚巣樞のはいる巣箱)この巣箱は取扱にも手頃で蜜蜂の成績も良いようです。

最近深箱と申しまして巣箱の深さが巣礎の1枚半の樞が入る巣箱とか巣箱の深さが1倍半(この深さにあわした樞を使用)を使用する業者がありますが一長一短ですから普通の深さがよいと思います。

巣箱の寸法を申しますと内側が縦1尺5寸4分、横1尺2寸8分、深さ8寸5分で板の厚さだけ外側は大きくなります。横板の前下に巾7寸上り3分5厘の細長い穴を作りここから蜜蜂は出入りします。これが巣門です。以上申しましたのが標準10枚箱の寸法です。

▲継箱

春4月中旬頃になりますと10枚箱に蜂が一ぱいになり収容しきれなくなります。この場合10枚箱の底の

ない箱、つまり継箱を上継ぎ巣樞を挿入して行きます10枚箱に蜜蜂が充満したのをそのままにしておきますと雄蜂房に雄蜂卵を産み又王台を作り分封の準備をします。あまり早春より分封さしますと群勢が弱り集蜜が悪く採蜜量が少なくなります。このように蜂王が雄蜂産卵をしたり王台を作り王台へ産卵するような常態に蜂群がなることを分封熱と言います。この分封熱は蜂王の性質にもよりますが蜂の蜜度の調節を技術的にしますと分封熱を低くすることが出来ますから、大流蜜前の分封熱に充分注意し熱をおこさぬようにせねばなりません。

転地家によると輸送に不便なので継箱を使用せず採蜜する方もあります。この方法を巣箱採蜜と申します。継箱の寸法は内側が縦1尺5寸4分横1尺2寸8分深さ8寸3分で巣箱より深さが少し浅くなっております。継箱には巣門を作る必要はありません。

▲転地用巣箱

蜜蜂を転地するには夜間蜜蜂が巣箱に帰った時に巣門を閉め目的地に行くのです。この場合巣箱内の温度が上昇してむれ死することがあります。これを蒸殺と言います。この蒸殺をなくするため、巣箱に輸送中通風装置のある巣箱が転地用の巣箱です。前にも申しました通り本県には岐阜式の転地巣箱が多く使用されており又大変便利です。この巣箱は前後に横7寸上下に3寸の窓を底より3寸5分上に作り金網を張り窓蓋が上下に動き上に上げれば窓を閉め下げれば窓が開くようになっております。尚前方の巣箱が同時に窓を開ければ閉り閉れば開くように設計されております。又上蓋は屋根を兼用で上を平にして積重ねて運送するのに便利なように出来ております。継箱にも同様前後に換気窓を作っております。

▲巣樞並巣礎

巣樞の寸法にも種々ありますが前に申しましたとおり標準巣樞を使用しますれば全国共通ですから便利です。標準樞の外側の寸法は長さは1尺4寸5分、巾7寸9分で杉材が普通ですが、最近転地家は桧材を使う人もあります。巣樞も市販を購入した方が割安で

岡山畜産便り1959.11・12

す。巢枢には横に3本針金（鉄線20番～22番）を張り巢脾が枢からはなれないようにします。巢枢にはあらかじめ巢礎を装着して置きます。装着する方法は巢礎を巢枢の上棧に蜜蝋で附着させてから下にある針金を巢礎の中に埋め込みます。これを埋線と言います。埋線には加熱埋線法と挿入埋線法があります。加熱埋線法の方が完全であり又便利でもあります。最近電気埋線器が出来まして大量の埋線をするのに使用されていますが、普通は鉄棒（6寸位の釘にしても可。）先をとがらし先端に針金を通る位の溝を作り800度～1000度位に加熱して針金の上をおして巢礎に針金を挿入します。

巢礎は巢礎の製造業者より購入しますが、製作メーカーで品質を異にします。純蜜蝋で作った品が最優秀品ですが、多量のパラフィンとか木蝋を混入した製品もありますから注意して購入しなければなりません。又腐ソ病の蜂群より採取しました蜜蝋には病原菌があります。巢礎で腐ソ病が伝染することがありますから、必ず病原菌のない蜜蝋で作った巢礎か又は菌の有無にかかわらず巢礎に加工する前に完全消毒する製造業者から購入するのが安全です。最近大きな製造業者は特殊な設備で蜜蝋度130度に加熱し30分位消毒しております。これなれば腐ソ病菌は死滅し完全消毒になります。製造業者は養蜂家が自家生産した蜜蜂を委託加工をしています。自家生産の蜜蝋で作った巢礎が必ず返送せられる場合は少なく、他の生産者の蜜蝋と混合調製せられますから、自家生産の加工だから無菌だと安心してはなりません。

巢礎には正六角型の凹凸があつて大きさに大小があります。普通10cmに19目位のものでよいようです。

巢礎は原蝋色で蜜蜂特有の香が柔くしかも巢箱に挿入した時に伸ないものがよろしい。あまり堅い巢礎は伸ませんが蜜蜂が巣を作る時に白い粉を落して造巣にてまどります。この白い粉を落すことを蝋鱗を落とすと言います。

又反対に柔かすぎると造巣には蝋鱗を落さずよいのですが巢箱内でせ巢礎が伸て折角の動蜂房が雄蜂

房に造巣せられます。

巢枢は常に蜜蜂が産卵育児貯蜜等の生活をする場所ですから優秀な巢枢を使用せねばなりません。巢枢の良いものは中央部に雄蜂房がなくほとんど全部が動蜂房であり且又巢房面で平で正六角型の穴が縦横に美しく揃つております。巢枢は5年位使用したら新しいのかえた方がよろしい、あまり古いものは巢房が黒色となり穴が小さくなつて生れる蜜蜂が小型になってきますからできるだけ巢脾の色が黒色にならない内にかえるのがよろしい、巢脾を巢箱より引上げて保存する場合は二硫化炭素の燻蒸をします（硫黄又はクロールピクリン等もよろしいが二硫化炭素が便利です。）一週間位後に2回目の燻蒸をした方が安全です。空巢脾は涼しい虫、ネズミ、等の被害のない所で乾燥する場所へ保管して下さい。